

今、アジアでホットな ロゼッタネット標準の導入

今や世界経済の中でアジア地域はハイテク商品の生産基地としても、消費市場としても、非常に重要な影響力を発揮している。

ロゼッタネットの地域組織も、アジアでは日本、韓国、台湾、シンガポール、マレーシアに加え、03年3月にロゼッタネットフィリピンが、10月にはロゼッタネット中国、そして04年3月にはロゼッタネットオーストラリアが設立され、各国での参加企業・団体数は日本：97、韓国：40、台湾：71、シンガポール：60、マレーシア：61とロゼッタネットの全世界で500以上を数えるパートナーの内、アジアがその60%以上を占めるに至っている。

ご存知のように、アジア各国では自国の経済基盤・国際競争力強化として、特にIT化、B2B化による自国企業の生産性向上、競争力強化に最大注力している。IT化戦略の核の1つとして、ロゼッタネット標準の導入に、直接的・間接的に政府支援策を実施している。

例えば、台湾ではIIIを基幹として、Plan-A～Dまでのロゼッタネット標準実装計画を組織的にも、資金的にも支援し、国家IT化計画の一環として推進している。

マレーシアでは、PIP開発の為にPIP-Factoryを設立し、PIP開発技術者を提供・育

成しながら、ロゼッタネット標準導入企業への資金援助を行い、行政と連携した「電子通関申告計画：TIGERプロジェクト」をペナン州で推進している。

シンガポールでも、IDAを基幹に導入企業への資金援助、インターネットでのロゼッタネット導入教育講座、更には、IDAよりロジスティックカウンシルへ人員を派遣している。

フィリピンでは、導入ツール開発へ人材の供与、電子通関申告プロジェクトへ参加し、マレーシアとの間で実証実験を開始している。

韓国でも導入企業への資金的支援、インフラ技術の開発支援を実施している。

アジア地域の各ロゼッタネット組織間では国際取引による、電子通関申告プログラム等の実務の他にロゼッタネット標準導入教育・啓蒙、導入コスト削減、技術辞書等での連携を深める活動を推進している。電子通関申告でのマレーシアーフィリピン間での実証実験等はその好例といえる。

更に、環境情報交換を軸に、辞書活用に関しての台湾と日本との連携作業開始等が動き始めている。このようにアジア地域では、ロゼッタネット標準活動が重要な鍵となって拡大している。

世界のロゼッタネットパートナーズ

